

(全宇宙は静止光子 $\gamma$ と等しくその質量 $M$ もゼロと等しくなる。)

今、全宇宙の総質量を $M[\text{kg}]$ とすると、

その総エネルギー $E[\text{J}]$ は次式で表わされる。

$$E = M c^2$$

$c[\text{m/s}]$  : 光の速度

今、これと等量のエネルギー $E$ を持つ光子 $\gamma$  1個の円運動を考える。

この1つの光子 $\gamma$ の円運動はその半径を $r[\text{m}]$ とすると、

その軌跡は、

$$Z = r e^{i\omega t} = r (\cos \omega t + i \sin \omega t)$$

で表わされる。

この円運動は実軸方向の波 $X = r \cos \omega t$

と 虚軸方向の波 $Y = r \sin \omega t$

の合成波であるから、その波長 $\lambda$ は

$$\lambda = 4 r [\text{m}] \text{となる。}$$

また、 $\lambda = c T = c / \nu$

$T[\text{s}]$ 周期 :  $\nu[\text{Hz}]$ 周波数より

その円周速度 $v[\text{m/s}] = r \omega = 2 \pi r \nu$ となる。

(全宇宙は静止光子 $\gamma$ と等しくその質量 $M$ もゼロと等しくなる。)

ここで、 $E = M c^2 = h \nu$

$h$  : プランク定数

より、

$$\nu = \frac{M c^2}{h} = \frac{E}{h}$$

また、 $r = \frac{\lambda}{4}$

$$= \frac{c}{4 \nu} = \frac{c h}{4 M c^2}$$

$$= \frac{h}{4 M c} = \frac{h c}{4 E} \quad \text{となる。}$$

$$\text{ここで、} \lim_{\nu \rightarrow \infty} \frac{c}{4 \nu} = \lim_{M \rightarrow \infty} \frac{h}{4 M c} = \lim_{E \rightarrow \infty} \frac{h c}{4 E} = 0$$

つまり、円運動する1個の光子 $\gamma$ の周波数が $\infty$ に近づくと、

その質量 $M \rightarrow \infty$ となり

そのエネルギー $E \rightarrow \infty$ となり

その1個の光子 $\gamma$ の円運動の半径は $r = 0$ に収束する。

つまり、全宇宙の総質量  $M \rightarrow \infty$  ならば、

全宇宙は限りなく周波数 $\nu = \infty$ の

半径 $r = 0$ の1個の光子 $\gamma$ の円運動と等しくなる。

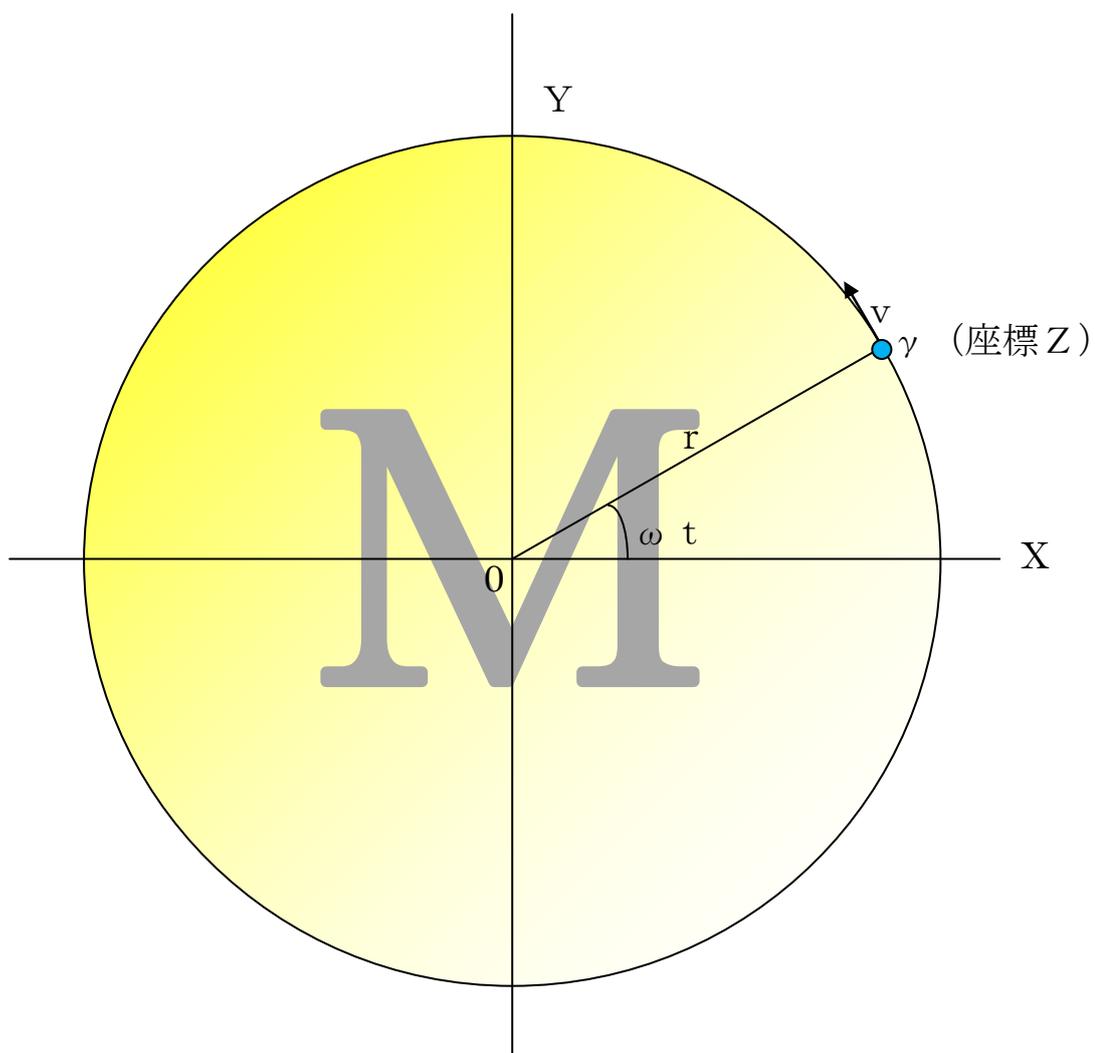
(全宇宙は静止フォトン $\gamma$ と等しくその質量Mもゼロと等しくなる。)

つまりこれは、

全宇宙は静止フォトン $\gamma$ と等しくその質量Mもゼロと等しくなる。

また、静止フォトン $\gamma$ はエーテルのことを示し、

その質量はもちろんゼロである。



(著作権 佐藤康弘)

Copyright (C) 2015 quest-for-truth.net.